

佐藤委員（広志会）

令和5年2月27日

教育長答弁実録

（教育委員会）

（問）学校図書館リニューアル事業の適切な推進について

リニューアルした学校から不満が出てきている。新聞報道によると、リニューアルした学校の先生は、「赤木氏の指示に従って廃棄した本の中には古くても良い本があった。本当に捨てていいのか最後まで迷った」と言われている。リニューアルした15校で11万冊余りの本を廃棄した。代わりに1万冊程度を購入したが、購入した本の中には、赤木氏御自身の本もあった。購入のさせ方は、各学校に赤木氏が入って、その指示通りに従わないといけない状況であったと、現場からは言われている。教育委員会にこれを聞くと、「どの本を買うかは最終的には校長が決める」と言われるが、現場からは、「県教育委員会に相談したが、買うように言われた」などの声が上がっている。従わなかった場合は赤木氏が教育長に電話して、教育長が校長に連絡して結局はそれに従わなければいけなくなるという声を私も聞いている。校長が決めると言いながらも、結局は教育長が決めているのではないか。現場では、赤木氏の機嫌を損ねないようにする心理が働き、疑問や意見があっても物が言えない。これは調査報告書にもあった、風通しの悪い組織風土そのものである。こういった学校現場の不満の声は、教育長に届いているのか、伺う。

（答）

平成30年の着任時において、過去10数年間、年間で0冊もしくは数冊しか本を廃棄していない学校が大半であり、図書購入費を配当しても図書館自体に本があふれかえり新しい本が入らないといったこともあり、図書購入に係る予算執行率は約65%にとどまっておりました。

しかも、

- ・ 広島県の不読率は約45%程度が続いており、高校生の約2人に1人が1カ月に1冊も本を読まない状況が10年以上改善されていなかったこと、
- ・ また図書館の貸し出し冊数も低迷し、利活用が低い

といった課題がございました。

そこで、アドバイザーに多岐にわたる指導助言を受けてきたところでございます。